

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第3週 (1/18-1/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		3週	2週	1週	53週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	16
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	27	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	1/18-1/24	1/11-1/17	1/4-1/10	12/28-1/3	1/11-1/17
			3週	2週	1週	53週	2週
小児科	RSウイルス感染症		8 0.44	3 0.17	11 0.61	4 0.25	53 0.39
	咽頭結膜熱		6 0.33	2 0.11	3 0.17	2 0.13	30 0.22
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	64 3.56	52 2.89	33 1.83	12 0.75	377 2.79
	感染性胃腸炎		186 10.33	183 10.17	164 9.11	66 4.13	1,233 9.13
	水痘		17 0.94	12 0.67	26 1.44	6 0.38	70 0.52
	手足口病		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	4 0.03
	伝染性紅斑	○	18 1.00	8 0.44	19 1.06	3 0.19	110 0.81
	突発性発しん		14 0.78	19 1.06	14 0.78	8 0.50	75 0.56
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	2 0.11	0 0.00	3 0.02
	流行性耳下腺炎		7 0.39	15 0.83	13 0.72	11 0.69	128 0.95
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎★	439 15.68	164 5.86	39 1.44	0 0.00	1,252 5.82
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	1 0.20	4 1.00	0 0.00	28 0.85
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	3 3.00	1 1.00	1 1.00	10 1.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	2 2.00	0 0.00	1 1.00	2 0.22
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	70歳代	病原体等の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
アメーバ赤痢	男性	50歳代	血清抗体の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	中枢神経症状

・第3週は、結核1件(10)、アメーバ赤痢1件(1)、急性脳炎2件(4)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第3週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.56となった。過去10年の同時期と比べると最多。

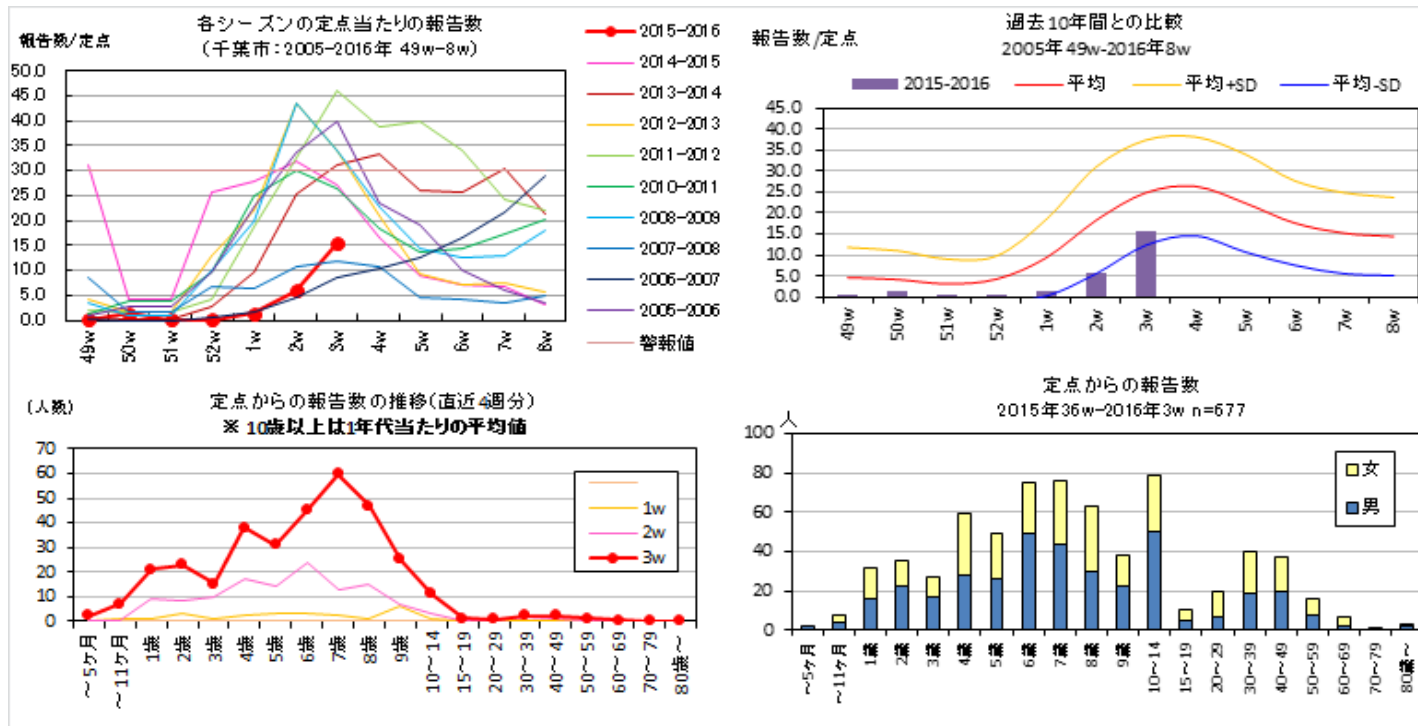
＜伝染性紅斑＞前週より増加し1.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。

＜インフルエンザ＞前週より大幅に増加し15.68となり、流行発生注意報基準値を上回った。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。

■ トピック ■

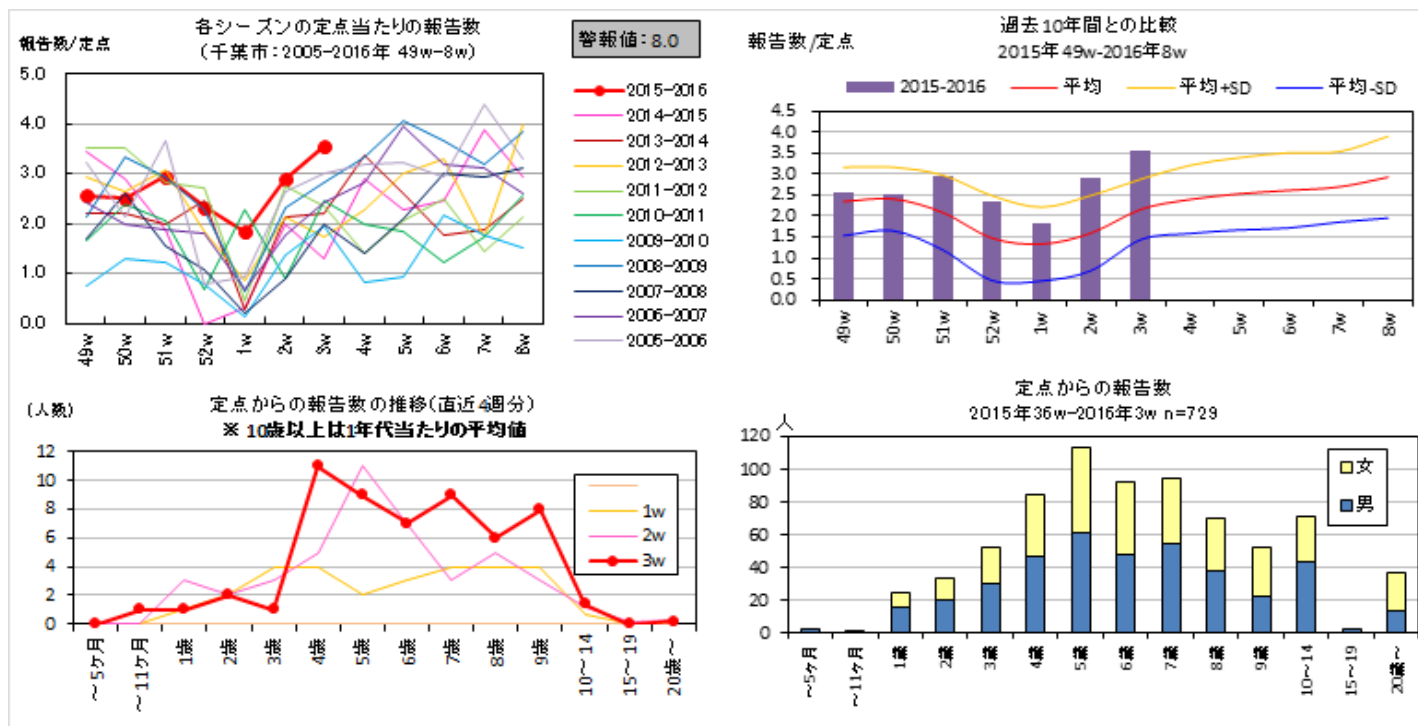
<インフルエンザ>

全国レベルの第2週は、過去9年の同時期と比べると少ないレベルとなっています。都道府県別では、沖縄県、新潟県、秋田県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2016年第3週は前週より大幅に増加し15.68となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、美浜区以外で流行発生注意報基準値を上回っており、中央区(24.3/定点)で最多で同区の7歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第3週までの累積報告数(n=677)によると、性別では男性が55.2%(374名)、女性が44.8%(303名)で、年齢階級別では7歳(11.2%:76名)、6歳(11.1%:75名)、8歳(9.3%:63名)の順に多くっており、20歳未満は全体の81.7%、10歳未満は全体の68.5%となっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第1週は、過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、山形県、静岡県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第2週は前週から増加し2.89となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(5.25/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第3週までの累積報告数(n=729)によると、性別では男性が55.0%(401名)、女性が45.0%(328名)で、年齢階級別では5歳(15.5%:113名)、7歳(13.0%:95名)、6歳(12.6%:92名)の順で多くなっています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第2週は、過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、大分県、山形県、秋田県の順に多く報告されています。千葉県はほぼ全国の平均レベルとなっています。千葉市の2016年第3週は前週から増加し1.00となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、中央区(2.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)に達し最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第3週までの累積報告数(n=45)によると、性別では男性が66.7%(30名)、女性が33.3%(15名)で、年齢階級別では6歳(20.0%:9名)、5歳及び7歳(共に13.3%:6名)の順に多くなっています。

